

AI 活用の成功法則と 戦略的アプローチ

サイボウズ株式会社

製品戦略室 兼 エンタープライズ事業本部

テクニカルエバンジェリスト 山下 竜

自己紹介

サイボウズ

製品戦略室 兼 エンタープライズ事業本部

テクニカルエバンジェリスト 山下 竜

新卒で電力会社で社内通信設備の維持管理に従事

2014 年よりサイボウズのパートナー企業で SI に従事

2019 年よりサイボウズのアメリカ拠点で現地テクニカルサポート担当

2025 年より現職



会社概要

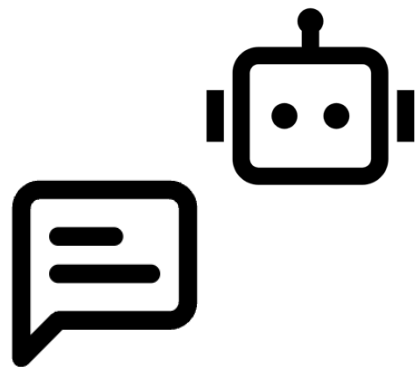
名 称	サイボウズ株式会社（東証プライム 4776）
事 業 内 容	グループウェアおよび チームワーク強化メソッドの開発・販売・運用
創 業	1997年8月（愛媛県松山市にて3名で創業）
従 業 員 数	連結 1276名（2023年12月末 連結）
拠 点	東京(日本橋), 大阪, 名古屋, 福岡, 仙台, 松山, 広島, 札幌, 那覇, 横浜, 上海, 深圳, 台北, ホーチミン, サンフランシスコ, シドニー, バンコク, クア ラルンプールなど
業 績	連結売上 254.3億円、経常利益 35.7億円（2023年12月期）

アジェンダ

- 社内データを組み合わせる AI 活用とそこで生じる課題
- AI 活用のためのデータ管理

社内データを組み合わせる AI 活用と そこで生じる課題

業務での AI 活用のステップ



生成 AI 単体

下書き作成

文字起こし

翻訳

要約

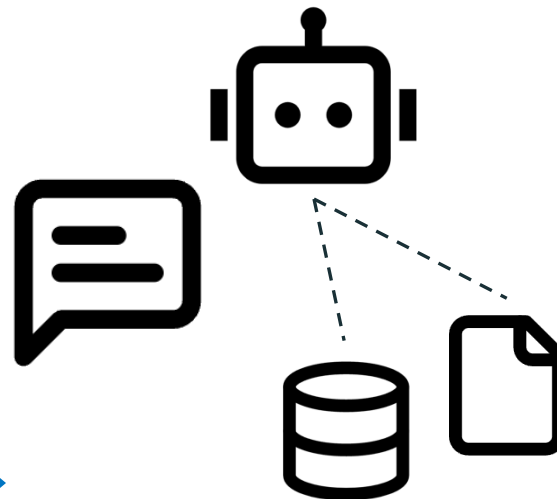
OCR

画像生成

動画生成

壁打ち

コーディング



生成 AI + 社内データ

検索 (RAG、fine-tuning)

下書き作成

文字起こし

翻訳

要約

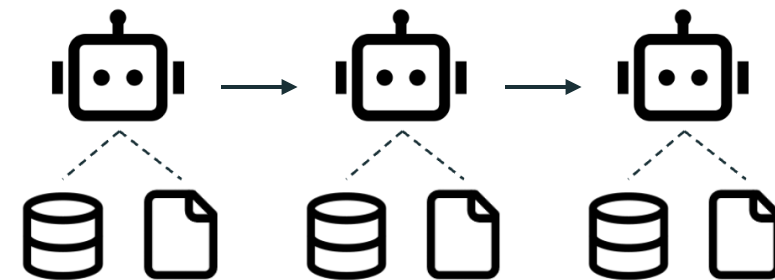
OCR

画像生成

動画生成

壁打ち

コーディング

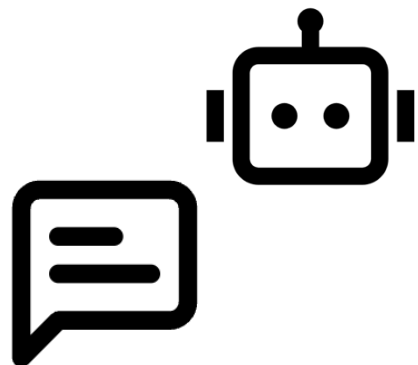


エージェント

アプリ開発

社内文書作成

業務での AI 活用のステップ



生成 AI 単体

下書き作成

文字起こし

翻訳

要約

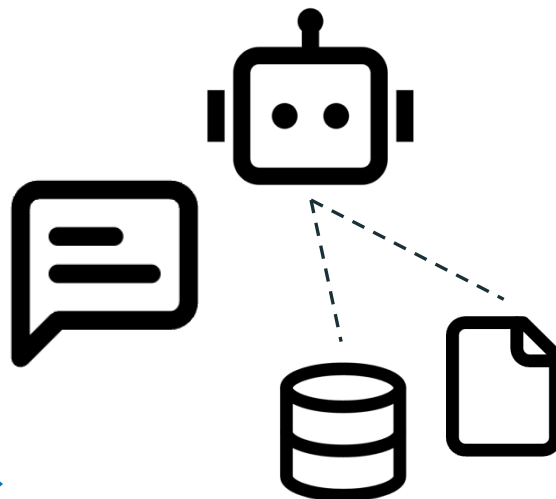
OCR

画像生成

動画生成

壁打ち

コーディング



生成 AI + 社内データ

検索 (RAG、fine-tuning)

下書き作成

文字起こし

翻訳

要約

OCR

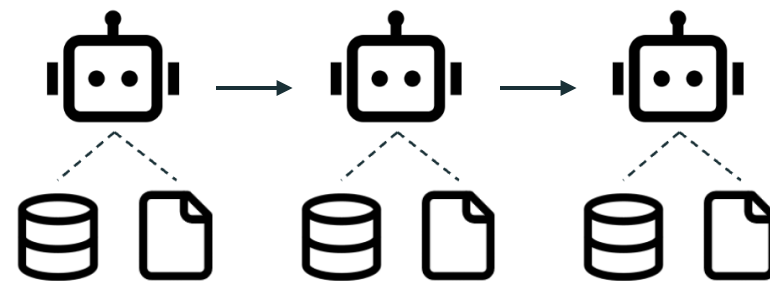
画像生成

動画生成

壁打ち

コーディング

課題が顕在化してきた



エージェント

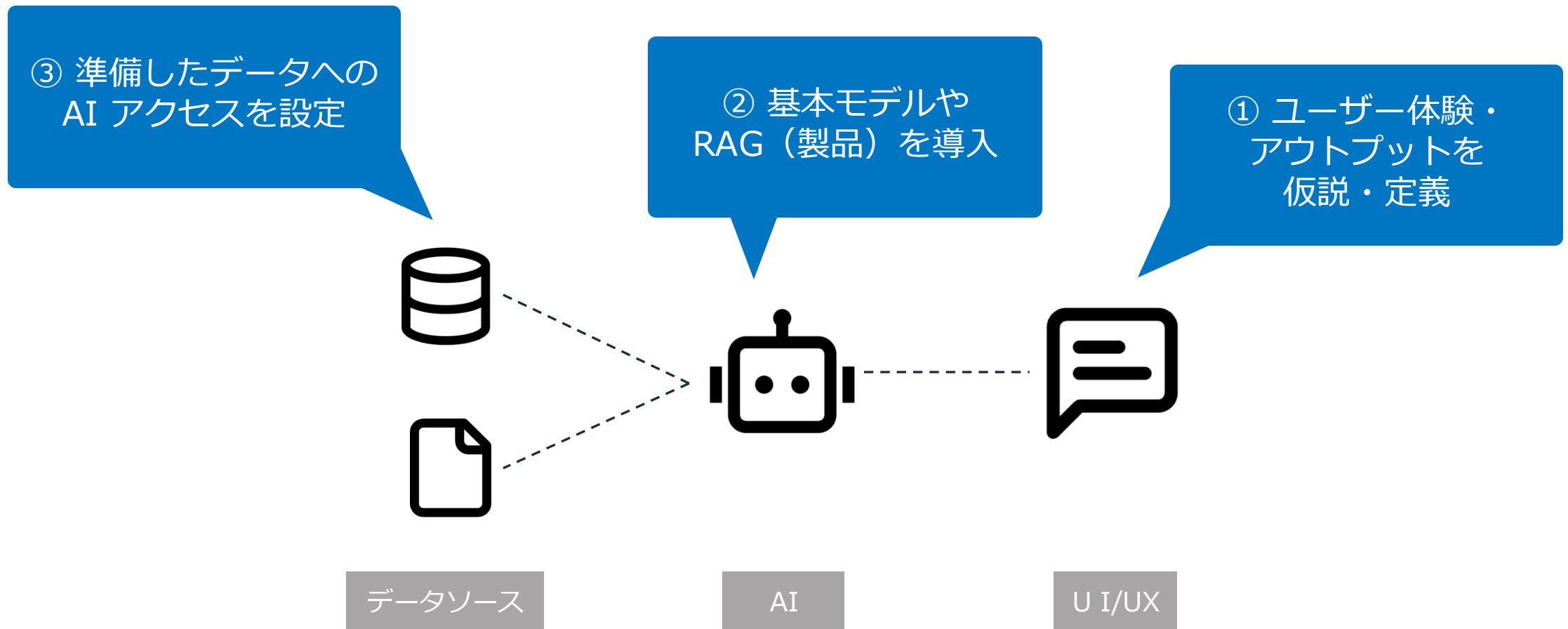
アプリ開発

社内文書作成

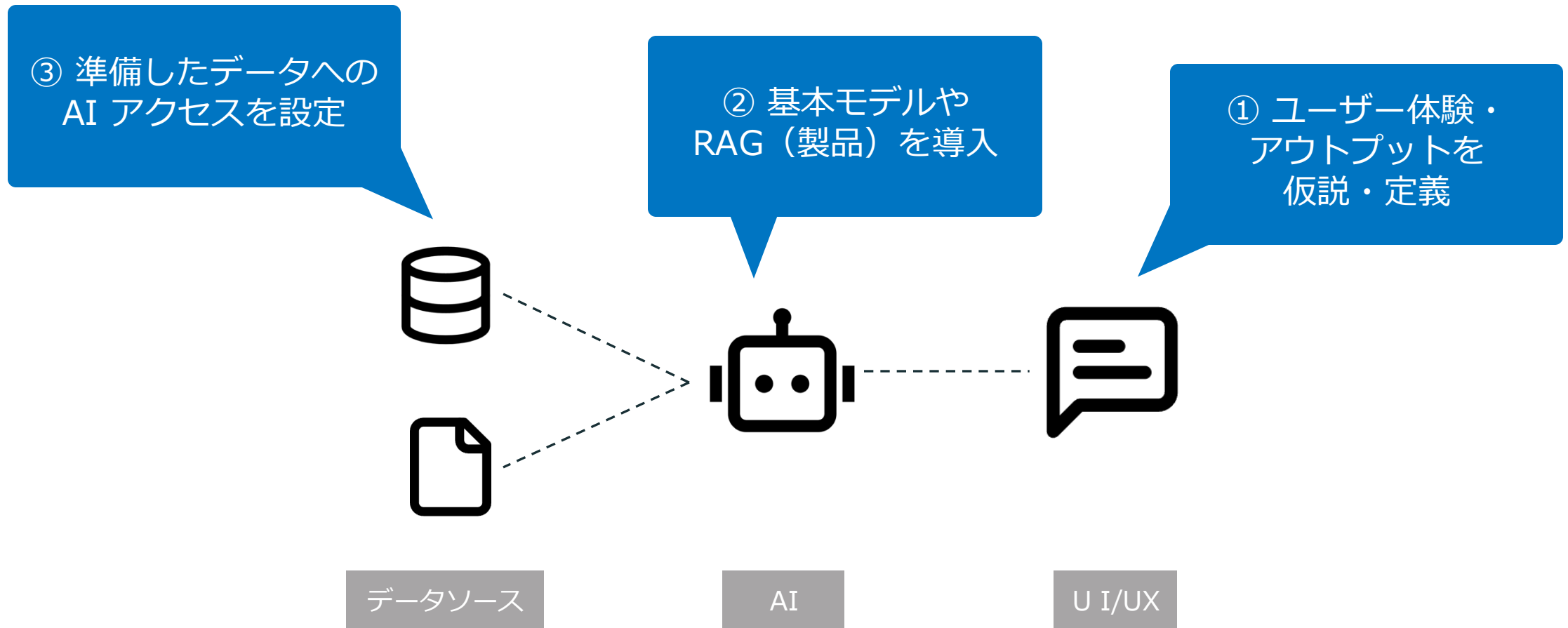
社内 AI 活用で生じる課題

- スタート時の課題
 - 社内・部門の AI 利用推進のコミットメント（予算、専任の体制）
- 実施段階での課題
 - 体制・リソース（関係箇所）
 - **AI に組み合わせるデータの整備**
 - ガバナンス・ガイドラインの整備 等

AI に組み合わせるデータの整備



AI に組み合わせるデータの整備



➡ とりあえずの対応では期待精度にならないことが多い

- **AI 活用のためのデータ整備の必要性**
 - 性能の向上
 - 初期の試行錯誤や改善容易性の確保
 - 中長期のメンテナンス容易性の確保
- データ整備の必要性に対する上層部の理解
 - AI 活用の準備ステップとして作業量と期間を要する

データ整備

所望のデータを適切かつ効率的に取得できる状態を作る

人や AI が

- 重複や不要な廃止済み情報の排除のしやすさ
- 関連情報の抽出や検索のしやすさ
- クエリや API によるデータ操作のしやすさ

AI 活用では、AI に渡る必要のないデータが渡って期待動作になっていないことが多く、これを防ぐ仕組みを作る

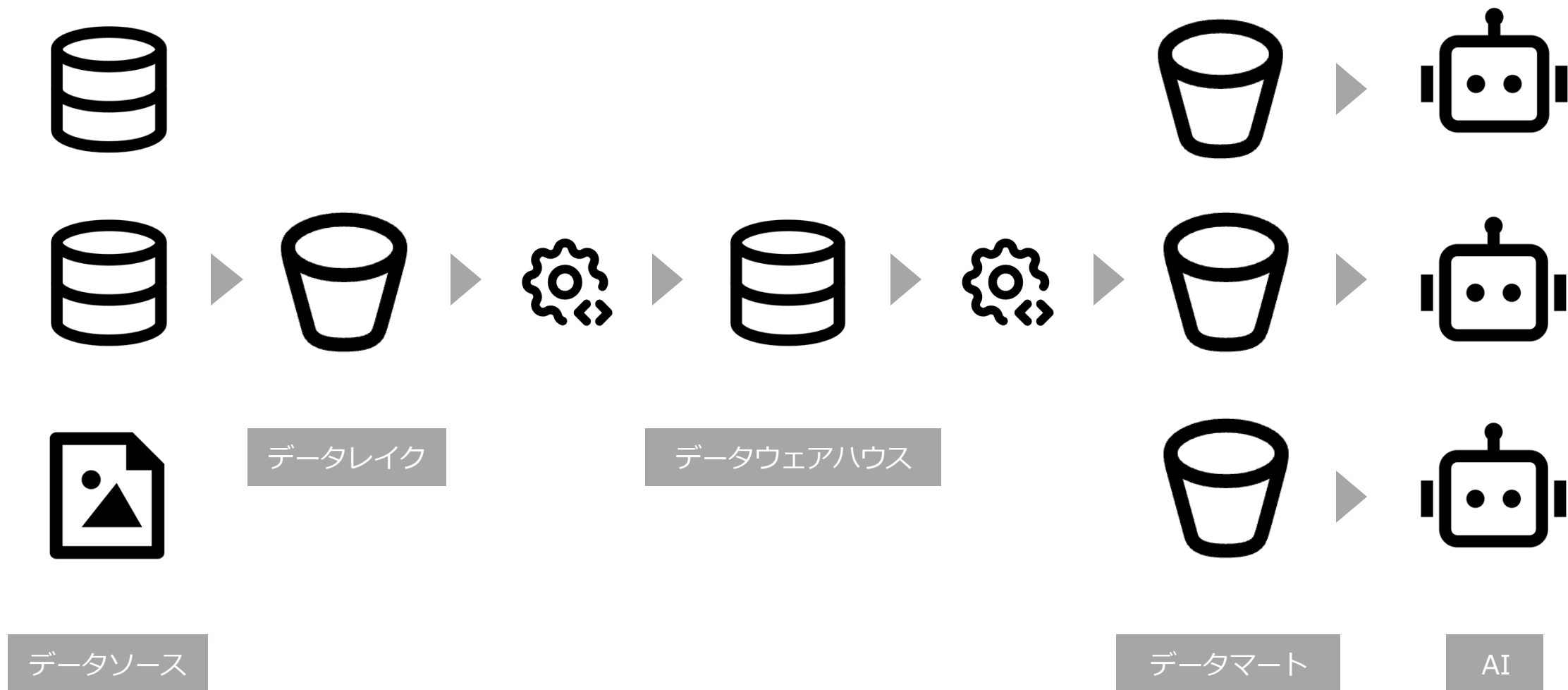
AI 活用のためのデータ管理

大きく 2 つの打ち手がある

	DWH 等を利用する データパイプラインの整備	ノーコードツールの活用
データ取扱のための 最低条件	データ型によるデータの定義・分類できること ファイルや非構造化データも受け入れ可能なこと	
コスト	大	小
データ量・パフォ ーマンス	大容量データに対応	大容量データの取扱には弱い
データ操作	柔軟性・容易性が高い	登録・取得等の基本以上の操作にはロジッ クの追加等での対応が必要
適用シーン（例）	DWH が既に導入済みで、AI 活用に組み合 わせたいデータソースが連携済みの時	業種・部門特化 AI 等 PoC を部門裁量で進 める時

データパイプラインの活用

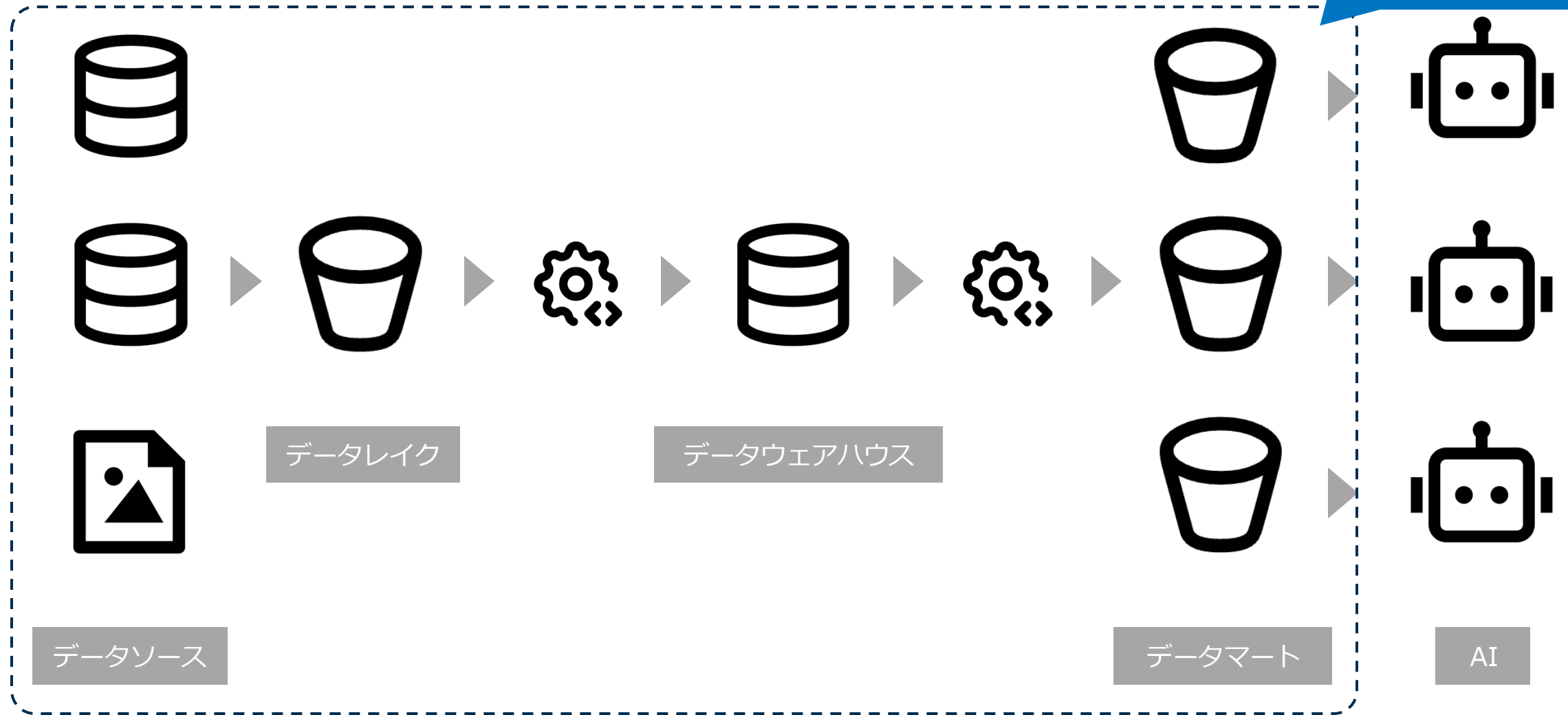
AI 活用のためのデータパイプラインを構築



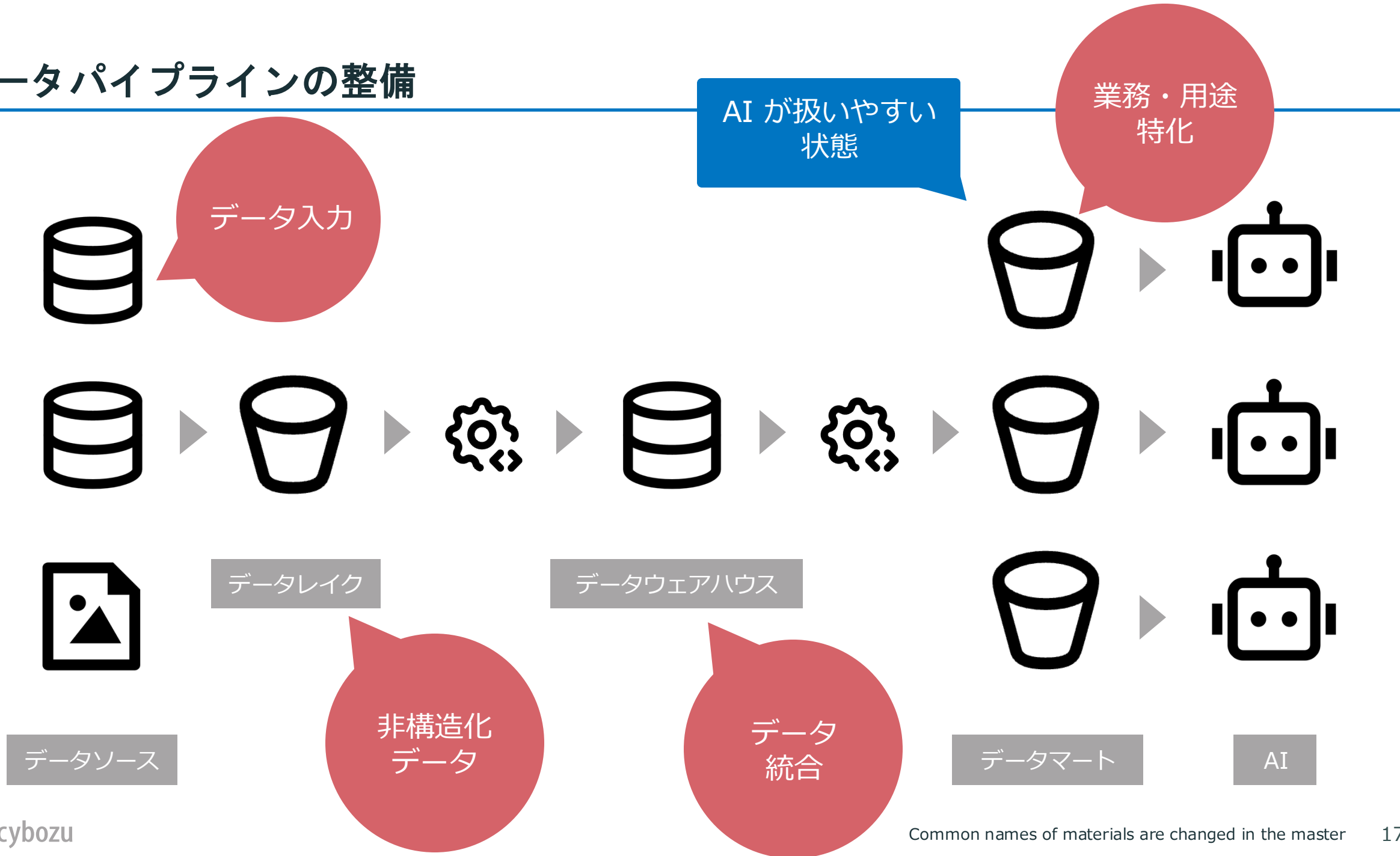
データパイプラインの活用

AI 活用のためのデータパイプラインを構築

AI が扱いやすい
状態

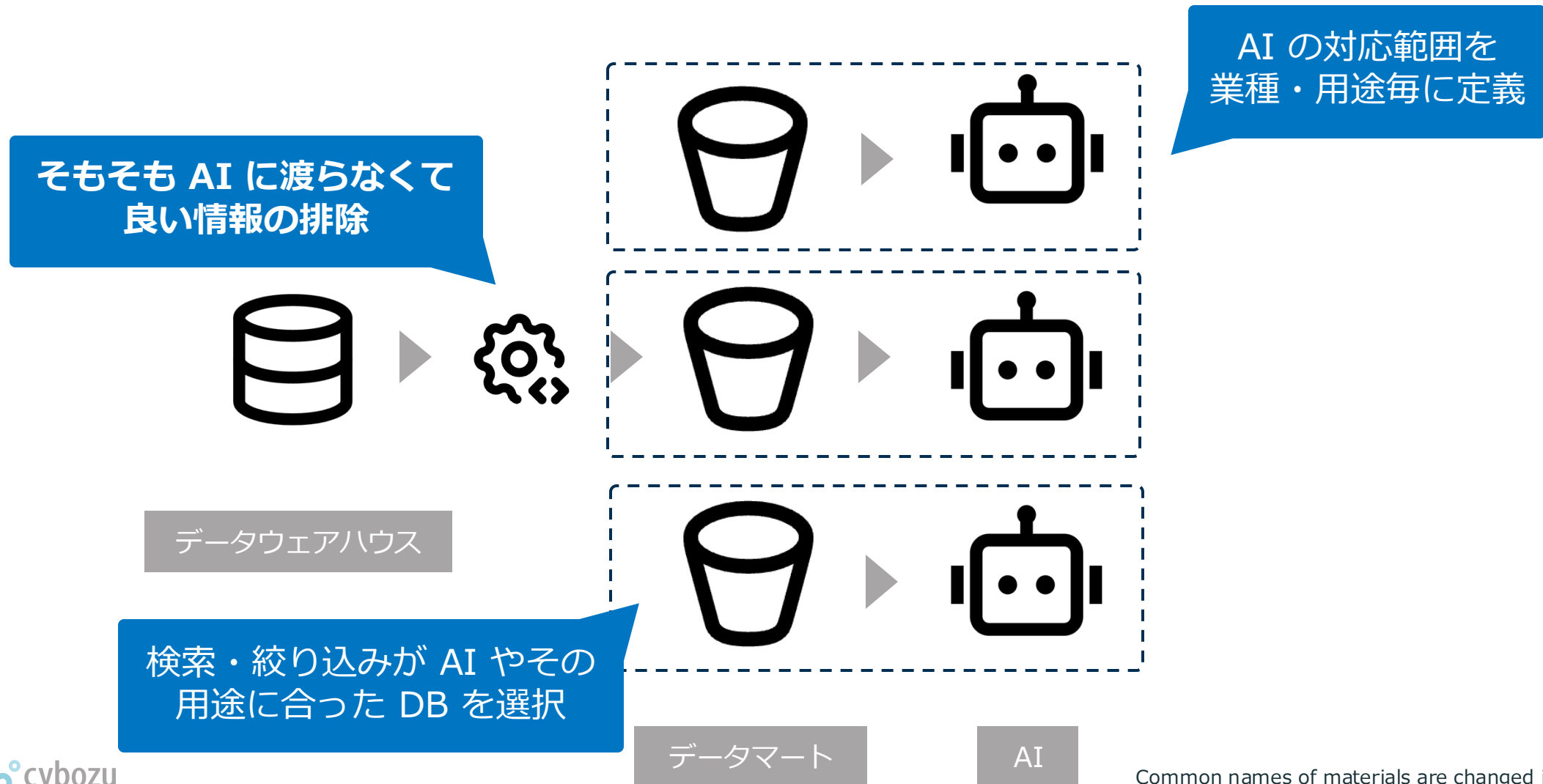


データパイプラインの整備



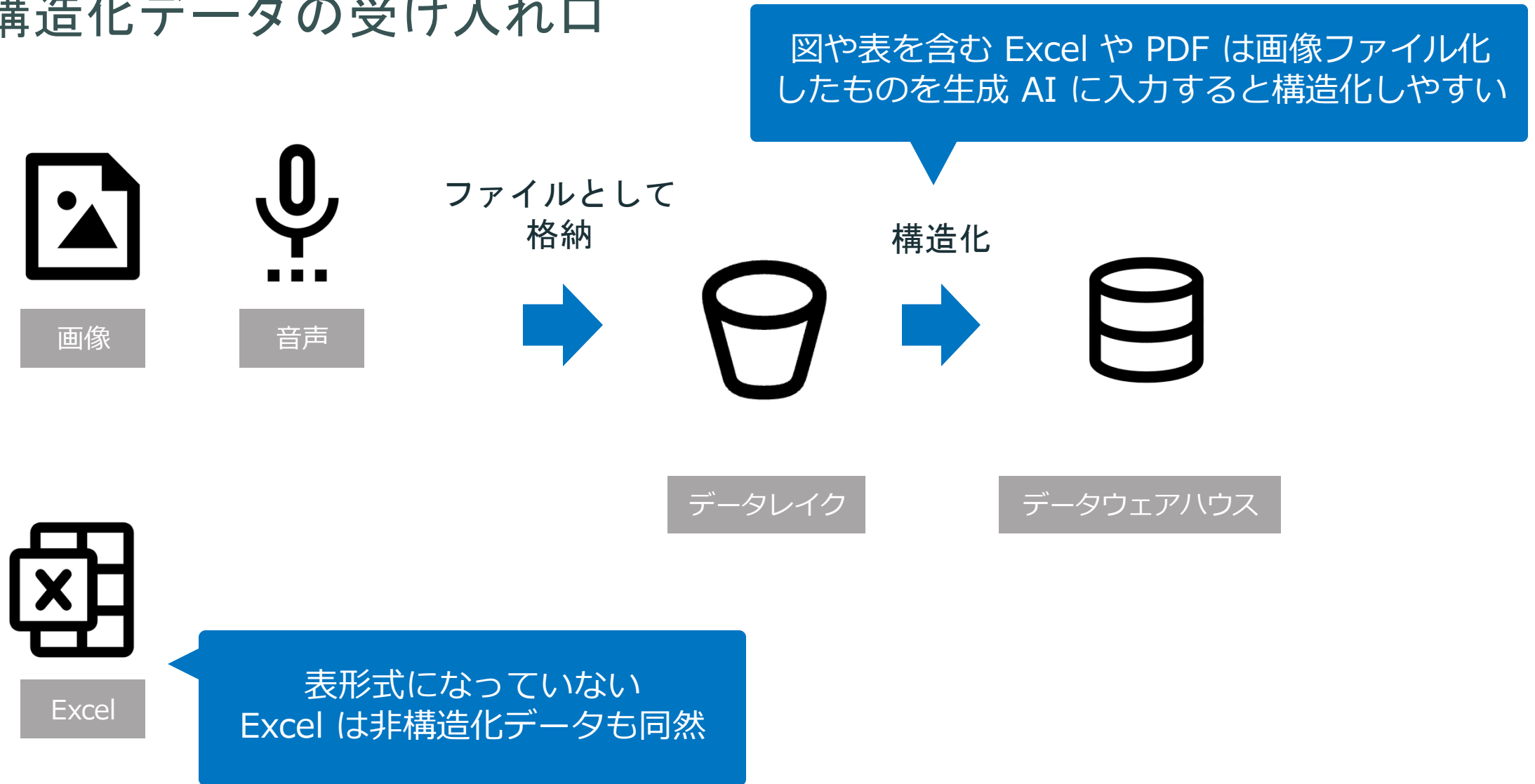
AI 活用に繋げるためのデータ管理 – データマート

業務・用途特化でデータを取得しやすくするグルーピング



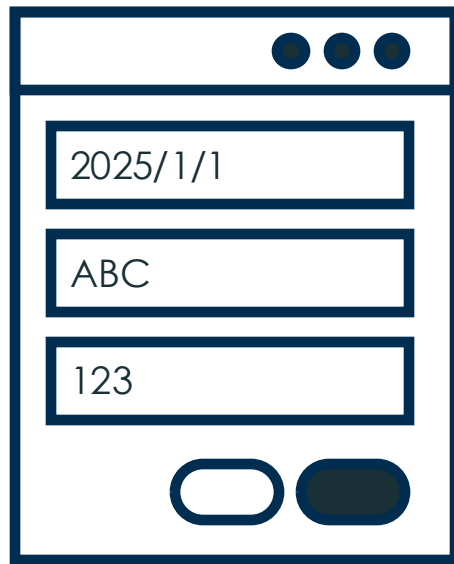
AI 活用に繋げるためのデータ管理 – データレイク

非構造化データの受け入れ口



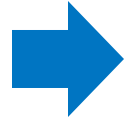
AI 活用に繋げるためのデータ管理 – 入力フローの最適化

そのそもデータ型含めた構造化を入力時点で整えてしまう



A diagram of a web input form. It features three stacked text input fields. The first field contains the date '2025/1/1', the second contains the text 'ABC', and the third contains the number '123'. Below these fields are two toggle switches, one in an 'off' position and one in an 'on' position.

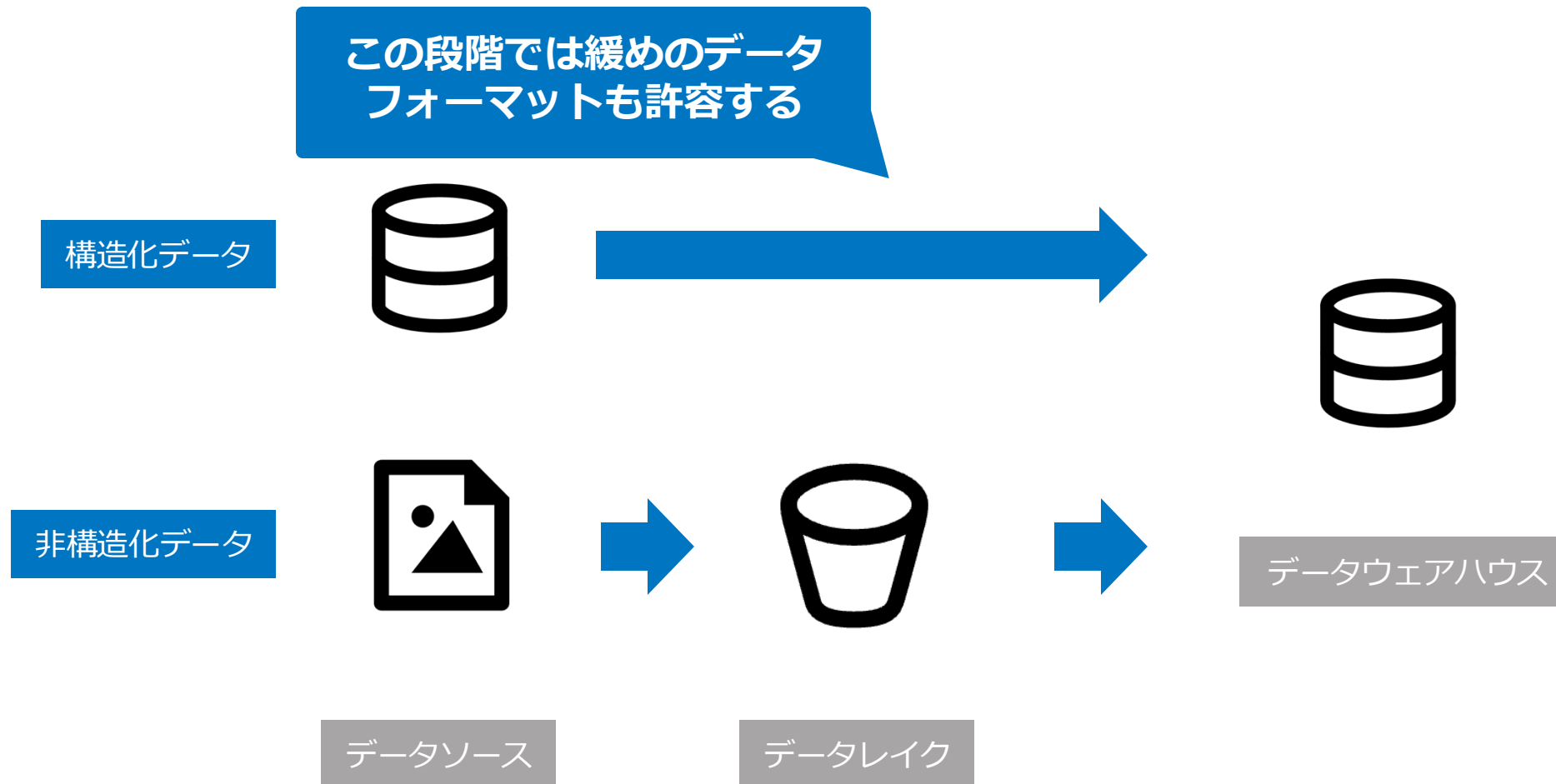
入力フォーム



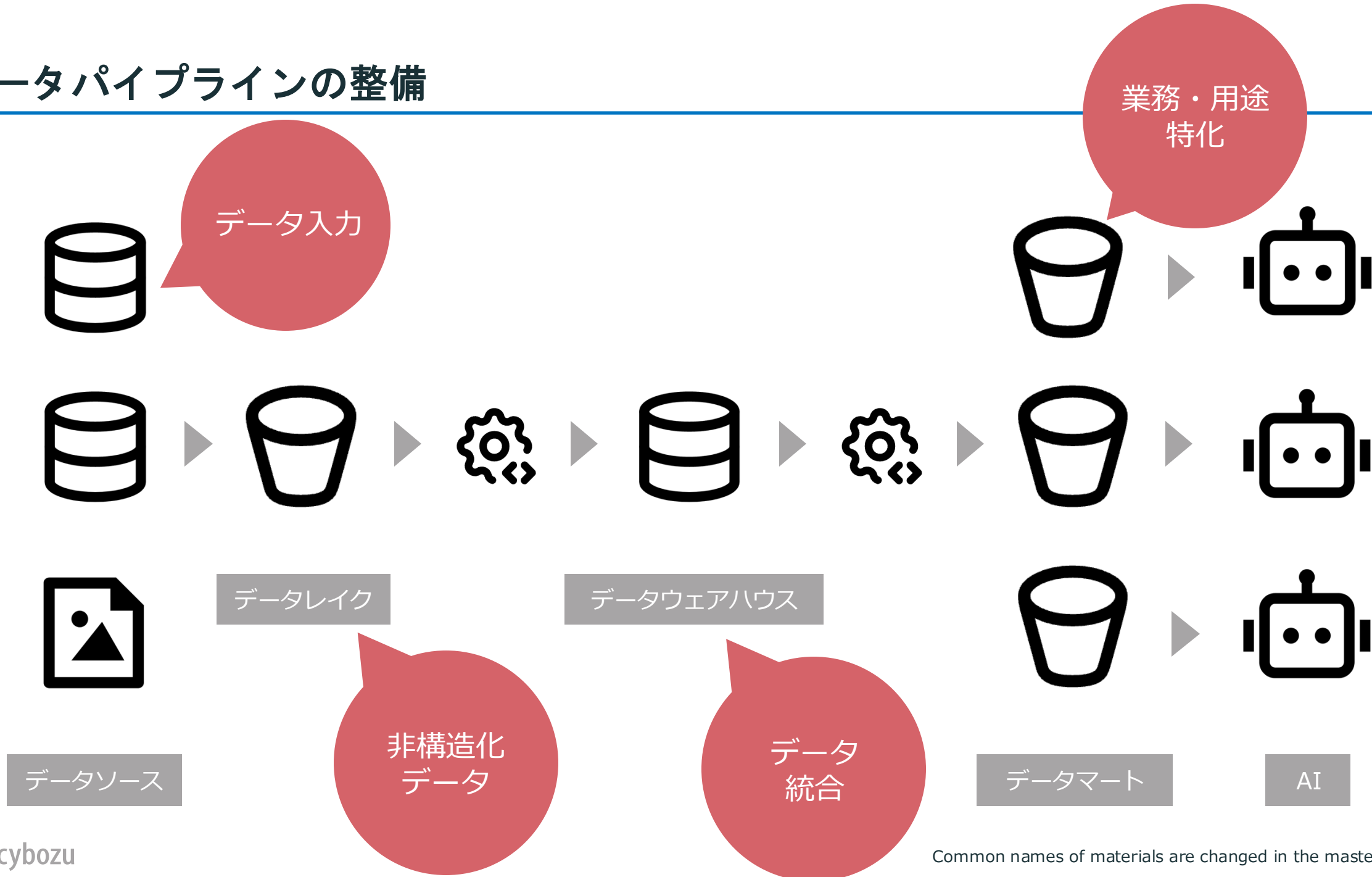
日付	テキスト	数値

データ収納

非構造化データを含めた入力データの統合と前処理



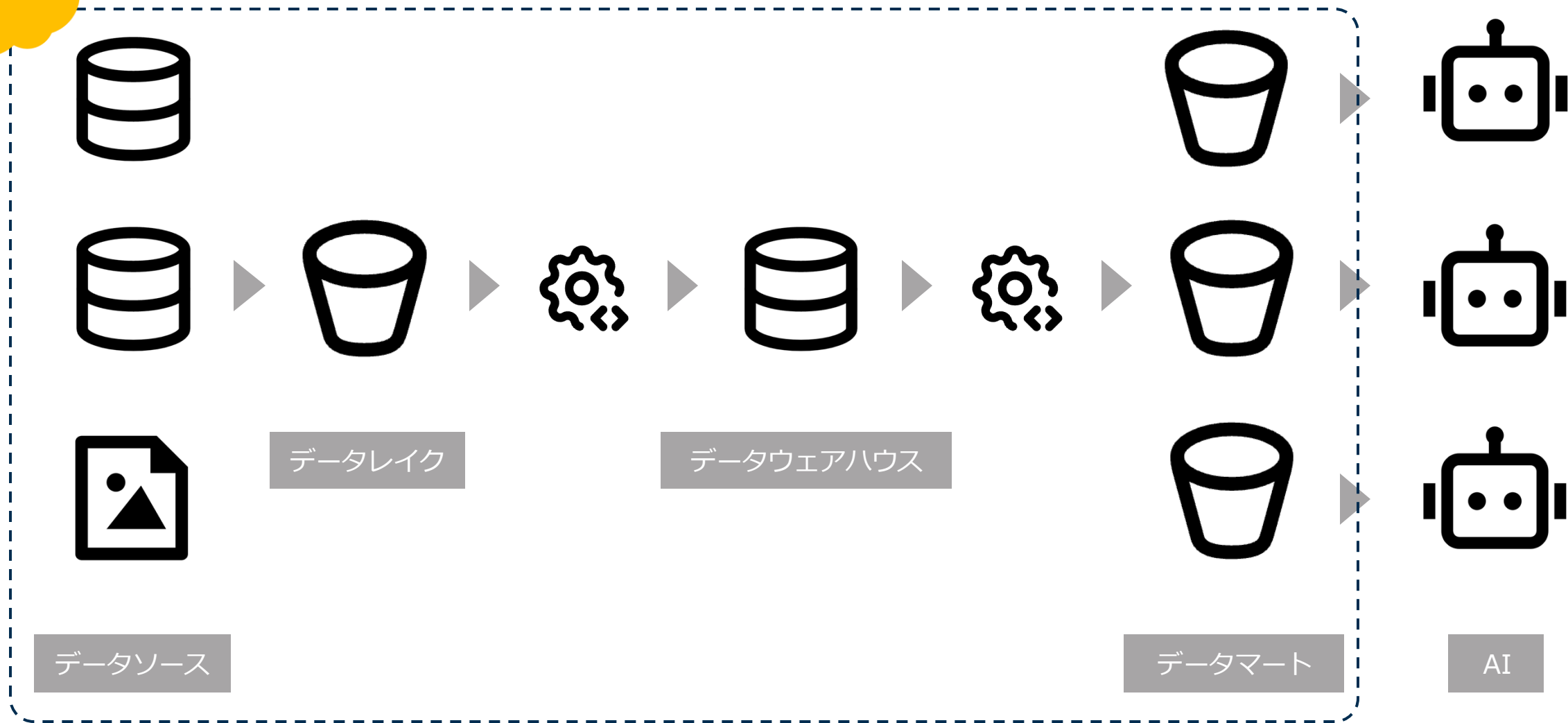
データパイプラインの整備



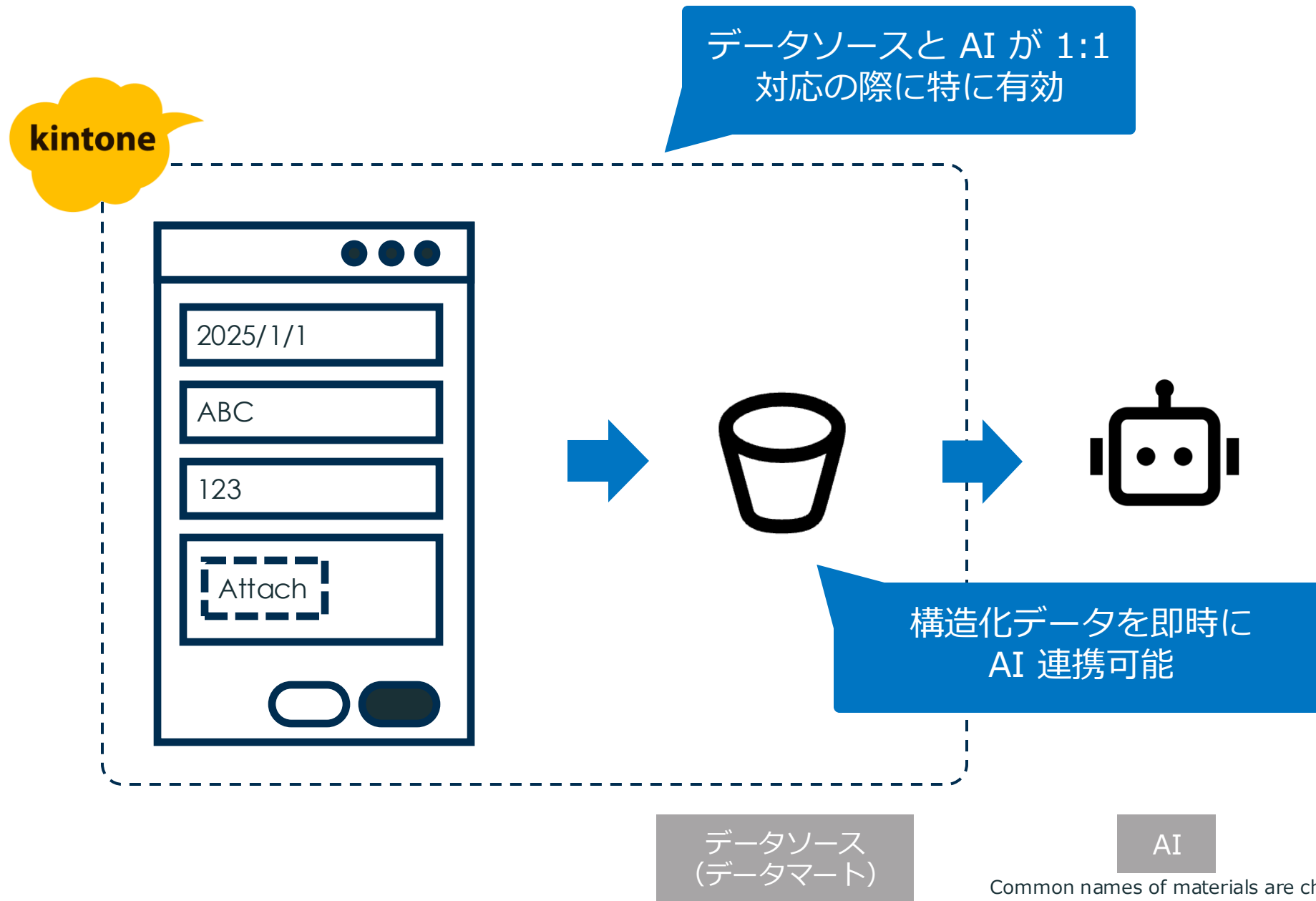
ノーコードツールの活用

kintone

ノーコードツールでデータパイプラインの構成を実践



ノーコードツールの活用



まとめ

まとめ

- 社内データを組み合わせる AI 活用で意識すべきデータ整備の考え方
 - AI に渡る必要がないデータが意図せず渡って期待動作にならないケースが多い
- データパイプラインの活用
 - データパイプラインを活用し、AI に渡る直前ステップであるデータマートの部分で AI に適切にデータが渡るような整備を行う
 - データソース側ではデータ整備としては緩めの状態でも許容する（一旦積極的には手をつけない）
- ノーコードツールの活用
 - データソースと AI が 1:1 対応の際には特に有効
 - データ型を伴う入力フォームから構造化データを格納するデータソースとして利用可能

アンケートへのご協力をお願いします



